

# 人生の道しるべ

木村  
俊一

人と日本人 & AI

青山ライフ出版

人生の道しるべ ― 人と日本人 & A I ― ● 目次

はじめに ..... 7

第一章 人 ..... 9

人の魂と心 ..... 10

時の持つ重要性 ..... 10

三つの時計 ..... 12

人の精神の発達 ..... 15

胎教と精神の発達 ..... 15

精神の発達 ..... 16

精神と肉体的行動 ..... 17

二つの時計の同期	19
人の信頼確保	23
子孫繁栄の道	25
精神の広がり	25
子どもへの愛情	26
物事を行う順序	28
組織の中で精神の育成	29
社会生活への第一歩	29
個性の発達	30
職業の選択	30
憧れの職業	31
親族の職業	32

自分に對する周囲の評価	33
常に考え続ける	34
青春時代	35
長期の見通し	35
二十歳代	36
中小企業への就職	36
大企業への就職	42
三十歳代	46
四十歳代	51
五十歳代	58
六十歳代	59
七十歳代	61

第二章	日本人	65
-----	-----	----

世界の中の日本人	66
----------	----

農耕民族	68
------	----

植物の成長と人との関わり	69
--------------	----

日本人の成り立ち	71
----------	----

世界の平和に向けて	73
-----------	----

第三章	人口知能（AI）	77
-----	----------	----

おわりに	83
------	----



## はじめに

地球上に存在する人は、時間（以下「時」）という絶対的な制約のなかで、個人と、個人の集団である国や地域があり、それぞれ異なった行動をしています。

人生を有意義に過ごしていると感じている人、反対に自分の人生を悔やんでいる人がいることは、言うまでもありません。

また、国ごとに異なる文化を持っていて、『勤勉で優しい心を持った国』という印象をもたれている国がある反面、常に争いの絶えない国や地域が存在していることも事実です。

同じ人間に生まれながら、なぜそれぞれ違った人生を送っているのか。また同じ地球に存在しながら、なぜ楽しみも苦しみも感じ方が違う国や地域があるのか。この二つの切り口に、「歲月人を待たず」の諺のとおり、戻ることのない時間軸を重ね、それにこれまでの私の人生経験などを合わせ、普遍的な「人とは」、さらに国際的観点から、「日本人とは」について考えてみたいと思います。合わせて、最近注目を浴びている「AI」についても触れたいと思います。

人の住んでいる地球は、膨大な宇宙の一つの星であり、それも、太陽を中心に覆すことのできない、物理的な「時」の中で活動をしています。

人は、身の周りの出来ごとを五感を通じて意識し、様々な問題に対して、「精神」が「時」を基軸にして「環境」に応じた解決策を見出しながら、肉体をコントロールして、人生を送っていると考えます。

八十年という、長い「時」を過ごした者にしか分からない経験もあります。それをどこどこに散りばめました。充実した人生を送るための、ヒントの一つにして頂ければ幸いです。

記述の根拠については、脚注を除き全編にわたり、自分の人生を通じて多くの人と接し、その行動を観察した結果と、自ら体験した結果に基づいたものです。



# 第一章 人

## 人の魂と心

魂や、心に触れるのは、人の神聖な部分に踏み込むようで、誰しも躊躇するテーマです。

しかし、人生を語ろうとするとき、避けて通れないと考え、あえて踏み込んでみたいと思います。

人の魂は、肉体に宿って心の働きを司ると考えられるもの。また心は、人間の知識・感情・意志などの働きの基になっているもの（以上日本語大辞典、講談社）。とあります。

以後、ここでは、「魂と心」は一对のものとして、両方を合わせて「精神」と統一して表します。

## 時の持つ重要性

「親孝行したいときには親はなし」の諺にあるように、刻々と過ぎる時間の中で、人は「その時」にしかできないこと、また「その時」にしておかなければならないことを、タイムインゲよく行う必要があります。

現役でバリバリ働いているときや、子育てに必死のときは、親のことは考える余裕もなく、人によつては、いつまでも親は丈夫で長持ちと、思っているのではないのでしょうか。